

【講評】

群馬大学教育学部教授 西園大実

地球環境基金助成事業「広域連携による環境教育プログラム策定事業」の評価

貴団体の3年間の事業計画の終了を前に、成果について評価いたします。

1. 事業全体の枠組み

赤城クリーン・グリーン・エコネットワーク(以下「CGE」と略記)は、赤城山という群馬県のシンボリックな地域に関連する企業、行政、市民組織、教育機関などの種々の団体が、それぞれの主体性を保ちつつ、「環境教育」という一定の方向性を持ったネットワーク＝「広域連携」を形成したものととらえられる。このような、学校現場からみれば外部組織としてのCGEが、主体性を持って、最終的には学校との連携も目指して地道な活動を行ったことが評価できる。

2. 教育現場(教育委員会・学校・教員)へのはたらきかけ

CGEの2年目の活動として、前橋市、伊勢崎市、富士見村の各教育委員会の協力を得て、学校現場における環境教育の課題とニーズを抽出している。その結果、小中学校の教員は、さまざまな教育課題を抱える中で、環境教育プログラムを自ら開発する時間やスキルを獲得することが困難であることを明らかにしている。

折しも、教育基本法改正で環境教育が盛り込まれ、それに応じて学習指導要領改訂が行われるときであり、きわめていいタイミングで有効な調査が実施されたと考える。

3. 赤城山周辺の環境教育施設・団体のリスト化

前項と同じく2年目の活動として、CGEに参加する施設や団体の環境教育に関連する活動について詳細な調査を行い、学校教育としての利用、個人・家族・任意団体としての利用という両面を想定した整理を行っている。活動内容(観察、体験、見学、宿泊研修)、対象年齢、教科との関連など、利用者にとって重要な情報を使い勝手の良い形でリスト化していると評価できる。

しかし、前項の結果とあわせて考えると、学校教育の中でこれらの施設・団体を利用する場合、適した施設・団体の存在が明らかになっただけでは、なお教員個人の資質や多大な準備時間を要するという点で十分ではない。比較事例として、群馬県教

育委員会で実施しているいわゆる「尾瀬学校」では、地元ガイドとの連携や学習プログラムの設定といった支援に多くのエネルギーがさかれている。CGE の事業においても、このようなソフトウェア面での支援の充実が重要である。

4. 環境教育プログラム集の開発

前項でリスト化された CGE の施設・団体を舞台として、実際に環境教育が実行された事例集といえるものである。個々の活動内容とあわせて、学校教育として重要な情報、とくに学習指導要領との関連が吟味されている点が評価できる。しかしながら、各プログラム実行のためには、学校の学年やクラスの人数規模に応じた指導者の確保や、施設・団体側の受入体制の整備などを必要とするものも見受けられる。

したがって、このプログラム集は現時点でも事例として十分に参考になるものではあるが、これらが本当に学校教育の中で位置づけられ定着していくためには、実施事例を積み重ねて学校現場の意見・要望を吸収しつつ、さらに改良していくことが必要だろう。また、実施事例を積み重ねていくためには、教育委員会との連携をとりつつ、プログラム利用の窓口整備など、利用しやすくする仕組み作りが求められる。

まとめ

以上、雑駁ではありますが、CGE の 3 年間の活動の流れに沿って、その意義や効果について検証してみました。全体としては、環境教育において赤城山という素材を生かすために、その方向付けを行ったという点で十分な成果を上げているものと評価できます。今後は、ここで示された各プログラムが実際に機能するような仕組み作りへと発展していくことを期待します。

以 上